(別紙4)　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071700237		
法人名	社会医療法人　恵仁会		
事業所名	シルバーハウス塚原		
所在地	長野県佐久市塚原２２２８－３		
自己評価作成日	平成21年12月5日	評価結果市町村受理日	平成22年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071700237&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク　医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島７－１　オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して１１年が経過しました。今まではご入居いただいている、入居者様とそのご家族の支援にばかり目を向けていたが、現在の事業所の取り組みとして、今まで培ったものを、地域の方々にも還元していく必要性を感じ、認知症についての講演会や座談会への参加などにも力を入れている。また、運営推進会議を足がかりに、もっと身近な地域の方々にとっても役立てるような存在となる為の取り組みも検討していきたいと考えている。また、佐久圏域内のＧＨとも協働して訪問研修や勉強会の開催もしながら、職員にとっても働き甲斐のある職場作り、質の向上にも引き続き取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご家族を、利用者を支える一員と位置付けている事業所の姿勢により、ご家族のアンケート調査や家族会における充実した話し合いが行われている。利用者の日頃の様子、面会時などにはあまり見せない利用者の笑顔やご家族への思いなどを伝え、ご家族と利用者との結び付けをさらに深めたり、誤解を解いたり、新たな相互理解の発見を促したりしてご家族の心に寄り添う努力をし、ご家族の温かい思いを引き出して、それが職員ではなかなか満たしきれない利用者の心の豊かさを引き出す要因となっている。目線を低くして、利用者を認めていくという基本姿勢で介護にあたり、一日一日を利用者と職員で共に過ごし、良いことも悪いことも共に分かち合って、肩ひじ張らず、当たり前に暮らしていけるよう取り組んでいる。法人による公開講座や佐久広域のネットワークによる勉強会など、地域に向けての認知症理解の発信や事業所に留まることなく広域でのケアの質の向上に取り組み、理念として掲げる、認知症になっても安心して豊かに暮らしていける地域づくりにも努めている。利用者が重度化する中、利用者やご家族の思いに如何に答えていくかが今後の課題である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(　　)

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やすらぎのある生活の場」という点で、入居者の「生活」を支えるという認識は強く持っている。また、「地域の皆様の為に」という点では運営推進会議を足がかりに、徐々に繋がりもできてきた。公開講座の開催等、地域の皆様にとっても役立てるような活動も始めている。	事業所と地域の関係性を重視し、事業所の目指す利用者へのサービスの在り方を端的に示した事業所独自の理念を掲げ、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事というものはあまりないが、ご近所の方とのお付き合いや、事業部主催の夏祭りなどにご参加いただきながら、交流は日常的に行えている。	地域主催の行事がまだ充実していないので、参加する機会はないが、事業所行事（夏祭りなど）への招待、中学生の体験学習や短大生等の実習の受け入れ、散歩時の挨拶、野菜等のおすそ分けなど地域と親しい付き合いをしている。又、地域で必要とされる役割や活動（認知症理解など）を積極的に担っていく努力もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業部主催の公開講座で地域の方向けに「認知症について」のお話をさせて頂いた。また今年度から市で主催している「在宅で認知症高齢者を介護している方々の座談会」に助言者として参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の皆様に参加いただいた結果、ご近所付き合いが気軽に、お互いができるようになったし、行政の方に直接報告できることで、より法制度の遵守という意識も強く持つようになった。これだけでも十分な向上といえるのではないか。	開催回数年6回、会議に地域の方や行政職員の参加があり、透明性のある議題提出、双方向的な会議運営と充実した内容となっている。会議録の公開状況も確認出来て、運営推進会議を活かした取り組みが出来ていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居･事故報告を行っていることに加え、運営推進会議において、事業所の取り組みや実情を報告している。	運営推進会議を通じて、行政や包括支援センターとの連携を図り、事業所の実情の理解を得ている。介護相談員の受け入れ（月1回2名）も行い、行政との協力関係を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむをえない場合以外は、日中玄関には施錠はしていない。身体拘束も行ってはいない。	身体拘束をしないケアについてのマニュアルもあり、日中は玄関に鍵を掛けないなど、抑圧感のない暮らしを支援する姿勢が職員に浸透している。離設する方も居るので、事業所として見守りや連携プレーを重視すると共に、地域の方にも温かい見守りをして頂けるよう理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は今まであまり無かったが、虐待防止の意識はある。そのためになるべく外部の人の受け入れを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際活用する必要はなく支援した経験は無いが、できるよう勉強はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	解約時は十分な説明を行い、記録にも残している。また、利用料金改定時には文書にて説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	秋の家族会の時にご意見などを伺える機会を設けた。	ご家族を利用者を支える一員と位置づけ、充実した年2回の家族会、行事等での利用者の様子を伝える年4回のたよりの発行、ご家族へのアンケート調査、面会時でのニュアンスが正しく伝わるよう配慮されたコミュニケーションなど、ご家族の思いや意向を充分に聞き、それに答えている事業所の真摯な姿勢が窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の事業所の運営会議などで、発言できる機会は設けている。実際反映もしている。	月1回の運営会議、年2回の目標面談、年1回の労働諸条件の意見聴取など職員の意見や提案を聞く機会を設け、職員の今の思いを充分に聞き対応するよう取り組んでいる。又、研修の機会を多く設け、職員の向上心や気付きを引き出す工夫もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の目標面談を通して、向上心ややりがいを持って働けるよう支援できるよう努めている。管理者が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の学習会に参加できるように機会は確保している。外部研修も必要に応じて受講している。管理者が行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐久圏域内のグループホーム11カ所と協働して、相互訪問、勉強会の開催などの取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にショートや体験利用をして頂いたり、入居直後も、その人を中心に他入居者と関われる機会を重点的に持つよう意識して取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のような取り組みをする中で、家族とも関係を持つ努力をしている。関係を深めるのは、入居後の重点課題と考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記の取り組みが可能であれば、直接その方と関われるので、その中で他サービスが適切か、グループホームが適切かは本人中心の視点で意見を述べている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側･される側という視点よりも、暮らしを共に支えながら送る仲間という意識を強く持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と話をする際は、ご家族のできることを、無理のない範囲内でよいので私たちと一緒にお年寄りを支えて欲しいと伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力を頂きながら、そのような支援に努めている。	知人や友人が訪ねて来たり、馴染みの美容院に行ったり、ご家族の協力による墓参りや自宅への泊りなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。利用者がこれまで培ってきた関係者との交流会への参加支援や重度化により参加できなくなった時には事業所を交流の場として開放するなどの支援をしていることを伺った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係も良好になれるよう、意識して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年関係を築いてきた家族にとっては、グループホームスタッフの方が相談しやすいということもあるはず。必要に応じて相談にものっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の想いを汲み取れるように、関係作りに努めている。	利用者の基本情報は充分に把握しているが、暮らしを共に支え合いながら生活していく仲間という意識でとらえているので、共に暮らす中からゆっくりと利用者の言葉や表情から把握して、利用者本位の生活ができるよう支援している。農作業など利用者の知恵を借り、職員として学ぶ機会も多いことを伺った。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人を知る為に重要なものと考えている。今までの経緯の把握に日々努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握はできているが、全体的に重度化が進み、それを発揮できる機会をつくる事が、難しくなってきてしまっている状況にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの入居者さんに担当がおり、そこに情報は集まった上で作成できていると思う。	包括自立支援プログラムを土台に、利用者やご家族の思いや意向を把握してアセスメントし、利用者の担当者が介護計画の原案を作成している。併設する老健の看護師や栄養士の意見を聞く機会もあり、幅広く計画の立案が出来ている。毎日のショートカンファレンス、月1回の実施状況の把握、6か月に1度の介護計画の見直し、心身の状況に応じての臨機応変の見直しと、現状に即した計画を作成していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの評価と、日中･夜間の様子の記録を中心に記入し、情報の共有もできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居を開始又は検討している方に対して、ショートステイや体験利用等を実施しながら、ニーズに合ったサービス提供も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全体的に重度化しており、支援が十分にできない状況にある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や専門医に適切に受診できるよう、また希望の入院機関にて治療が受けられるよう支援している。	利用者とご家族の希望する医療機関としているが、併設する協力医療機関が往診や緊急時の対応等適切な医療を受けられる環境となっているので、日頃の医療対応は協力医療機関となっている。医療連携体制があり、看護師の健康チェック、市の歯科衛生士の口腔チェックなど医療面での安心感を利用者やご家族から得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している、訪問看護ステーションの看護師と必要に応じて連絡･相談を行い、必要な支援が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が受けられるよう、病院とも情報交換は密に行っているし、家族とも連絡をとりながら不安の解消に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて家族へ管理者から説明を行っている。記録にも残している。必要に応じて担当ケアマネージャーとも話し合いを持っている。	重度化や終末期の在り方についての指針があり、同経営で併設している老健や医療機関のバックアップ体制も充分あって、ご家族との話し合いも行われ理解を得ている。事業所の目指すグループホームのケアの在り方、職員体制等を考慮しながら、利用者やご家族の思いを実現できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会には参加できるように、機会を作っている。7月16日に実施済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した、避難方法などのシュミレーションを時々行って、確認しあっている。近所の方にも、避難経路などを説明している。	年2回の避難訓練を行い、消火器、熱･煙火災警報器、自動通報装置等の防災設備も整い、避難経路については運営推進会議を通じて地域の理解を求めており、避難方法のシュミレーションを時々行うなど、災害への対策は出来ている。夜勤者1名となる夜間の避難対応が一番不安であるので夜間想定の訓練を全職員参加の下、年1回は行うことを望みます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居期間が長くなり、少し慣れてきた部分もあり、言葉使いも馴れ合いになりつつあるので、これを機に気をつけていきたいと思う。	個人情報の保護や個人の書類の保管等についての職員の理解認識は出来ていた。日頃何気なく行ってしまう利用者の尊厳保持への配慮に欠けた言葉かけや第三者から見ると気になる行動等、気付いた時は管理者から注意するなどの対応をしているが、なお一層の努力をする姿勢である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時には本人が話しやすい職員が接したりしながら、本人が話しやすい環境作りもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診やグループホーム全体の行事以外は、本人のペースに合わせた食事時間、休息の時間、起床･就寝時間を可能な限り優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装や、お化粧、パーマなどなるべくその人らしさが保てるよう把握し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態が複雑になり、入居者さんに活躍して頂ける場面が減ってしまっている。洗い物などのお願いできる場面は、毎日お願いしている。	これまで利用者と共に行ってきた調理が重度化による食事形態の複雑化により、充分出来なくなってきたが、調理の下準備･片付け･洗い物など出来る範囲で利用者が気持ち良く協力出来るよう職員と一緒に行っている。献立については、併設する老健の栄養士の指導を受け、栄養バランスの保持に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補助食品や水分ゼリーを活用し、無理なく摂取できるよう支援すると共に、量のチェックも毎日行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施できている。必要に応じて、歯科衛生士によるチェックと指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けての取り組みは不十分かもしれないが、トイレでの排泄が継続できるように支援している。本人のペースになるべく合わせてトイレへの誘導も行っている。	トイレ誘導等の状況を記録する欄を大きく取った様式を使い、排泄パターンに沿った誘導や声掛けをし、トイレを使っての排泄が出来るよう支援している。又、パットやリハパンを活用して、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減するよう配慮することを大切なケアの一つとして取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響は、経験からも十分理解できている。なるべく運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングは職員の都合優先の事が多いが、一番風呂にこだわる方、ゆっくり入りたい方の希望などがかなうよう支援している。	入浴日は行事等で欠ける日を除いて、概ね週6日行い、平均して1人週2回、1日3～4人が入浴している。利用者の全ての希望を実現することは出来ないが、一番風呂に入りたい、ゆっくり入りたいなど利用者の希望を聞きながら行い、寛いだ気分で入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調を把握し、休めるよう支援している。また、夜間施錠して休みたい方(本人の希望で)には、施錠できるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度できていると思う。特に向精神薬等の副作用によっては、転倒などのリスクが高くなるものもあり、十分に注意し、量の調整も医師にお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割はそれぞれにある。仕事の役割、そこに居てくれるだけで、みんなにとって安心をあたえてくれる存在（役割？）の人。それぞれがここにいる意味が感じられるような人間関係作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体的に重度化しており、支援が十分にできない状況になっているが、職員だけでは支えきれない場合など、家族も協力を求めながら、家族も一緒に支えているという意識を持ってもらえるようにと、考え、取り組んでいる。	重度化により、日常的な散歩は充分に出来ないが、近くの妙楽寺への散歩、テラスでの外気浴、花見等を主としたドライブなど戸外に出て気分転換や五感の刺激になる支援を行っている。ご家族の協力を得て、外出する機会を多く持てるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方が1名いる。支払いも利用者自身で行い、困っているときには手助けしている。進行していく過程で、全ての時期でお金を自分で持つことが大切とは思わないが、大切な時期は持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その支援が必要な方がいれば、電話をかけたりしてもらえるよう、事務所の電話をご利用いただいたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激があった方が望ましいときと、望ましくないときの区別を意識してつけている。（休む時間、活動する時間の、ＯＮ／ＯＦＦ）	居間兼食堂は台所と一体のフロアーとなり、調理の音や匂いが感じられ、職員との会話も楽しく行われていた。畳の間にはソファーを置いて立ったり座ったりを楽にして、テレビも置き、寛いだ空間作りが施されていた。東側の掃き出し窓からの採光も良く、外にはウッドデッキ、庭木の桜、果樹園（りんご）、愛犬の「さつき」、各種の野鳥が見られ、穏やかで落ち着いた雰囲気があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんのＡＤＬや性格などに応じて、家具類の配置換えなどをして工夫をしている。		

外部評価結果(シルバーハウス塚原)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は意外とシンプルだが、みなさんそれぞれに使い勝手の良い居室にはなっていると思う。	ベッドと物入れは事業所で準備してあるが、それ以外は、利用者とご家族で馴染みの品々を自由に持ち込み、思い思いの使い勝手の良さを大切にして、ベッドを含めて配置してあった。昼間、居室で寛いで過ごす利用者も居ることを伺い、一見シンプルな雰囲気はあるが、利用者にとっては居心地の良い空間になっていることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室の表札などを分かりやすく表示している。		